

三 次の文章を読み、あとの(1)～(4)の問いに答えなさい。

次は、「待ちぼうけ」という童話のもととなった故事が書かれた文章とその現代語訳である。

株を守る

宋人に田を耕す者有り。田中に株有り。兔走りて株に触れ、頸を折りて死す。因りて其の耒を積りて、株を守り、冀復得。兔復た得べからずして、身は宋国の笑ひと為れり。

(『韓非子』による。)

宋の国の人で田を耕す人がいた。田の中に切り株があった。兔が走ってその株に当たり、首を折って死んだ。それがきっかけでその人は耒を捨てて []、また兔が手に入ることを願った。兔は二度と手に入れることはできず、 []。

- (1) 〈内容把握〉 文章中に 其の耒を積りて とあるが、田を耕す者の行動を説明したものと最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。
- ア 切り株を掘り起こすのをやめて、兔を追いかけた。
 - イ 切り株に当たった兔を助けるために、耕作を中断した。
 - ウ 手に持っていた耒を振り回して、兔をしとめた。
 - エ 使っていた耒を放り出し、田を耕すのをやめてしまった。

- (2) 〈内容把握〉 文章中の 株を守り の意味として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア 切り株を見張り
- イ 切り株に囲いをつけ
- ウ 切り株の周りを耕し
- エ 切り株を傷つけないようにし

- (3) 〈書き下し文〉 文章中の 冀復得兔 が「復た兔を得んことを冀ふ」と読めるように、次の「冀復得兔」に返り点を付けなさい。

冀 復 得 兔

- (4) 文章中に 身は宋国の笑ひと為れり とあるが、これについて次の(a)、(b)の問いに答えなさい。

- (a) 〈動作主〉 誰のことであるかを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。
- ア 田を耕す者
 - イ 兔
 - ウ 切り株
 - エ 耒

- (b) 〈内容把握〉 その人がどうなったかを、「……じゅうの……」という形を使って、十字以上、二十字以内で書きなさい。

20	
10	

四 次の文章を読み、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。

梅見にまかり歩かきけるころ、東山にいと大きな桜のあるのを見て、

花の頃はまたも訪きひ来きなど言いひたるを、この頃思おもひ出いでて、ひとり

二人誘よひて尋ね行くに、心あての花咲はなきぬと見えて、山の半ばに雲の
おめあての

おりみたらんやうなり。分けのぼりて見るに、半ば散り過ぎたり。盛

りをこそ訪きはめと思おもひしをいとくちをし。ここを如意に寺いといふを聞き
て、

我が思ふ心のごとき寺ならば風には花をまかせざらまし

(小沢蘆庵『六帖詠草』による。)

(注)如意……思いのまま、という意味。

(1) 〈内容把握〉 文章中の 花Aの頃 が指し示すものとして最も適当

なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 梅見の時期 イ 桜の盛り

ウ 花の咲きはじめ エ 空がかすむ季節

[]

(2) 〈内容把握〉 文章中の 訪Bひ来きん の意味として最も適当なもの

を、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 訪ねて来よう イ 訪ねて来るだろうか

ウ 訪ねては来ない エ 訪ねて来い

[]

(3) 〈表現技法〉 文章中に 盛Cりをこそ訪はめ とあるが、この表現

の特徴として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 対句によって文にリズムが生まれている。

イ 文末を体言にして文に余韻を与えている。

ウ 倒置法のために文の語順が変化している。

エ 係りの助詞がその前の語を強調している。

[]

(4) 〈内容把握〉 文章中に いとくちをし とあるが、その理由として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 梅見はできたが桜は見られなかったから。

イ 花が半分ぐらい散ってしまったから。

ウ 花見をする約束を果たすことができなかったから。

エ 山の中腹に寺があることに気づかなかったから。

[]

(5) 〈内容把握〉 「我が思ふ……」の和歌の意味を解釈した次の文の

[] に入る言葉を、十字以上、二十字以内で書きなさい。

私の思いのままになる寺ならば、[] だろうに。

20		
		10

五 次の文章を読み、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。

やんことなき人、にはかにいたづきにかかれりけり。たやすからぬ
高貴な人 病氣 もつ一人の医者

の道には世の常ならねば、これと心を合わせて、薬調ぜよと言へば、

初めのくすし頭ふりて、さらば、その世の常ならぬ者に任せたまへ、

かかるどみのいたづきを療治せんに、人を語らひてはいかで出で来べ
このような急な 人と話し合つてどうしてできようか

きと言ひければ、げにもとて初めのに任せてければ、そのいたづきも
なるほど

すみやかに怠りぬ。
快復した (松平定信『花月草紙』による。)

(1) 〈仮名づかい〉 文章中の にはかに を現代仮名づかいに改めて、
 全てひらがなで書きなさい。

(2) 〈内容把握〉 文章中の 世の常ならねば の意味として最も適当
 なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。
 ア 人並なので イ 風変わりなので
 ウ 優れているので エ 常識がないので

(3) 〈内容把握〉 文章中に これと心を合わせて、薬調ぜよ とある
 が、こう言った理由として最も適当なものを、次のア～エのうちか
 ら一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 急な病気で、正式なくすしに頼むことができなかつたから。
 イ 高貴な人なので、くすしが二人いてどちら譲らなかつたから。
 ウ 病状がわからず、どのくすしがふさわしいか決めかねたから。
 エ 病状が難しく、一人では対処できない心配があると思つたから。

(4) 〈内容把握〉 文章中の 頭ふりて が意味していることを表す熟
 語として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その
 符号を書きなさい。

ア 拒否 イ 思案
 ウ 感心 エ 承諾

(5) 文章中に 初めのに任せてければ とあるが、これについて次の
 (a)、(b)の問いに答えなさい。

(a) 〈内容把握〉 「初めの」は、文章中の やんことなき人、この
くすし、彼、その世の常ならぬ者 のうちのどの人物か。ア～
 エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

(b) 〈内容把握〉 こうした理由を、「という言葉に納得したから。」
 に続くように、十字以上、二十字以内で書きなさい。

20	
10	

という言葉に納得したから。

六 次の文章を読み、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。

昔、^(注)唐土に、ある人、用所ありて、闇夜に出行せし途中にて、何やら
 ん^A足に触りたるを踏みたれば、ぐいと鳴りたり。此人、心の中に、蛙
 を踏み殺したりと思ひ行き過ぎ、用所を仕舞い、帰^Bりて寝入りたるに、

夢中に蛙どもかすかず集まりて、科^{とが}もなき蛙を踏み殺されたりとて、夜
 もすがら驚かしけり。さて、夜あけて、其所に行きて見れば、蛙には
 中^中あらで茄子にてぞ有りける。其踏みたる時、茄子と知らば、など蛙を
 夢に見るべきや、茄子をこそ見るべけれ。蛙を踏み殺したりと思ふた
 る心ゆゑに、夢中に蛙におかされたるなり。

是にて、死^E霊、生^{しやうりやう}霊の罰^{ばち}といふも、皆心ゆゑと知るべし。
 (江島為信『身の鏡』による。)

(注)唐土……中国。

(1) 〈内容把握〉 文章中の 足に触りたる ^Aものは何だったかを、
 『ある人』は、「」に続けて、「……だと思ったが……」という形を使っ
 て、十字以上、二十字以内で書きなさい。

20			10		

(2) 〈内容把握〉 文章中に 夢中に蛙どもかすかず集まりて とある

が、夢に出てきた蛙が「ある人」を責めた理由として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 用事とはいえ闇夜に出かけたから。
 イ 無理に蛙を鳴かせようとしたから。
 ウ 罪のない蛙を踏み殺したから。
 エ 踏み殺された蛙を助けなかったから。

(3) 〈表現技法〉 文章中に 茄子にてぞ有りける とあるが、この表現の特徴として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 倒置法のために文の語順が変化している。
 イ 文末を体言にして文に余韻を与えている。
 ウ 対句によって文にリズムが生まれている。
 エ 係りの助詞がその前の語を強調している。

(4) 〈内容把握〉 文章中の など蛙を夢に見るべきや の意味として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 蛙を夢に見るのがよい
 イ 蛙を夢に見るにちがいない
 ウ 蛙を夢に見るはずがない
 エ 蛙を夢に見てもしかたない

(5) 〈内容把握〉 文章中に 死^E霊、生^{しやうりやう}霊の罰^{ばち}といふも、皆心ゆゑが表すこととして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 魚心あれば水心 イ 疑心暗鬼を生ず
 ウ 万物の霊長 エ 信賞必罰